



碧南ロータリークラブ週報

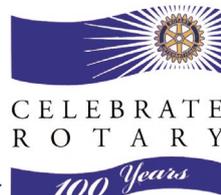
第2272回例会 平成17年6月15日(水) 雨/曇. 最高25.3℃. 最低20.3℃

- 会長 池田 弘孝 ● 幹事 黒田 昌司 ● SAA 小笠原良治
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 鶴田光久・杉浦昌裕・石川唯司・竹中 誠

ロータリーを
祝おう

100年の歩み

2004~2005年度
国際ロータリーのテーマ



● 斉唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館



故服部一彦君席



池田弘孝会長

黙 禱

ただいま、S・A・Aさんよりお話がございましたが、突然の訃報に接しました。服部さんが亡くなられたとは、我々まだ信じがたいところがございます。そこで、お願いでございますが、いま、服部さんの席にネームプレートと花が添えられています。ここで、S・A・Aさんをお願いして黙禱を捧げたいと思います。30秒でお願いしたいと思います。

黙禱開始

(30秒間)

終わります。

ご協力有難うございました。服部一彦さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

会 長 挨拶

今、国会では、郵政民営化関連の審議が政府の思うようには進まず、会議が大幅に延長しているようであります。総理大臣の腕の見せ所になるかどうかです。1960年(昭和35年)はまさしく「60年安保」の年でありました。戦後の日本の方向を決定づけた年でもありました。1月の岸信介首相ら渡米全権団の改定条約調印から日本国内は騒然としはじめました。5月、警察官導入による強行採決をみて、安保阻止の闘争は拡大し、国会周辺は連日のようにデモが繰り返されていきました。そのクライマックスが45年前の今日6月15日の夜でありました。10万人のデモ隊が囲み、国会突入の全学連のデモ隊に警官隊が襲いかかった。東大文学部学生の樺美智子さんが死ぬという事件が起き、負傷者は数知れなかったようでありました。しかし、新安保条約は、6月19日午前0時自然承認となりました。

その後国会の空白状態が続き、岸内閣は6月23日総辞職いたしました。岸さんと言えば、A級戦犯を紙一重で免れた運の強い方です。今の小泉さんは、どんな筋書きをたてるのかどうか興味あるところです。漱石がとうの昔に憂えたのが、「何がおきてもおかしくない」そして「回りはじめた歯車は止められない」世紀をわれわれは生きているそうです。いつの世も先人の言葉に重みを感じます。

幹事報告

- 例会変更は、
- 第12回理事会の報告をいたします。
 - ① 5月度収支について承認されました。
 - ② 新入会員の入会について承認されました。
 - ③ 元気ッス碧南の協賛について承認されました。
- 国際ロータリーより
2004年国際大会記録集のDVD（1000円）を購入希望される方は、森さんまでお申し込みください。
- 例会終了後202号室で次年度クラブ協議会を開催いたします。次年度役員・理事・委員長はご出席ください。



黒田昌司幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 76 名（内出席免除者 15 名）出席者 59 名	
出席対象者 49 / 61 名	出席率 80.33%
欠席者 17 名（病欠者 0 名）	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 加藤丈太郎君 先日第53回碧高同窓会総会の席上、当メンバーの竹中誠同窓会長より地域医療に貢献ということで、表彰を受けました。大変恐縮しています。
- 森田 英治君 会員服部一彦さんの急死により大役ながら葬儀委員長を務めさせていただきます。通夜、葬儀場所等については訃報の通りです。よろしくお願い致します。
- 木村 克美君 安協鈴木新支部長のもと私の御苦労さん会を開いていただきました。
- 植松 敏樹君 愛知県の日本赤十字社の病院・血液センターなど各施設の監査がすべて終了しました。有難うございました。
- 池田 弘孝君 本日卓話をさせていただきます。よろしくお願い致します。
- 新美 真司君 6 / 5 の消防団操法大会も無事終了しました。
- 杉浦 昌裕君 碧南市消防操法大会にて次男信介が団員の碧南市第2分団小型ポンプの部で優勝しました。
- 竹中 誠君 加藤丈太郎様先日は総会にご出席頂きまして、有難うございました。
早退 2 件 合計 28,000 円

卓話

「反省」

碧南RC会長 池田 弘孝君

「ロータリーを祝おう」のテーマは、分かり易く いいテーマと受け取りましたが、大島ガバナーは、「ロータリ100年をお祝いだけに終わらせない」と尾びれをつけられました。祝うことは、イコールお祭りとして理解してしまいましたが、そうはいきませんでした。ロータリーの手続き要覧をほとんど開かず1年過ごしてしまいました。有り難かったと皆さんに感謝申し上げます。反面何も勉強せず、今後会長経験者だから云々と言われると、能無しをさらけ出しになりますので辛いところです。

七夕からの出発で、無事に務めたいと祈るような気持ちでのスタートでした。「地域で喜んでもらえるクラブ」という大きな目標をかかげ、ロータリーを楽しむんだと勢い込んだのがいま



池田 弘孝君

思えば少しはずかしく感じました。でも皆様のご協力でスタンスは全て目標に向いてのことと自負しています。毎回の会長挨拶は、今日の歴史を取り込んでの挨拶ばかりで、お聞きにくかったことと他力本願に徹してしまったことをお許してください。

インフォーマルミーティングではいつもながらの山中先生の強い万歳に勇気付けられました。前年度から商工会議所で行われますので、豊のうえとは違い、事務的になりがちですが、最後まで盛り上げて頂きました。これも前年に早く帰る人が多くて、山中先生が見るに見かねて「俺より早く帰るとは何事だ」と濁を入れて頂いたお蔭です。どんな団体でも同じですが、濁を入れる人がいないと安きに流れてしまうことが多いと感じ、いい勉強になりました。

ガバナー補佐の鈴木信吾さんは、一色クラブ出身でバラを栽培してみえる方でして、植物に関して知識の深い人で、毎年補佐の歓迎の意をこめてさしあげる植木鉢の草花の名前もご存知で、大変喜ばれました。食事の弁当についても、毎年必ず味で褒められますが、今年は味と10数種の植物の入ったおかずで絶賛され、私どもも改めて感激したところでした。これも碧南ロータリーアンのなせる業でしょうか。

ガバナーの公式訪問は、4クラブ合同で行われました。知立や刈谷の会長幹事は大成功だといっていました。碧南は喜ばれませんでした。遠くまで行き、ガバナーとの交流も身近に感じられず遠い存在でした。いっその事ガバナーを一人増やしたらどうかという意見も出たほどです。そんなことを4クラブの会長会議に申し上げましたが、これといった反応はありませんでした。

職場例会を上宮熊野神社にて950年式年祭の行われる1週間前にロータリー100年を寿ぐことが出来ました。新装なった参集殿にて厳かにロータリー100年をクラブでお祝いいたしました。台風の余波で雨に振り込まれましたが恵の雨で縁起がいいと思ったところです。

グラスツリーという木を初めておぼえました。オーストラリア全域の特に乾燥した地域に自生し、相次ぐ山火事にあっても、表面上は真っ黒に焦げてしまっていますが、枯死することなく生き続け、その長寿を保っている木であります。ワシントン条約で決められている植物で国外には出せない植物です。そのグラスツリーを浜名湖博の会場からあおいパークへの移動運搬にかかわったことは地域に協力できた一つだと思います。おかげで、あおいパークが小さいけれどダイヤモンドの光を放っているといわれているそうです。1月に入りまして5名の新入会員山中寛紀さん、新美雅浩さん、長田和徳さん、森田雅也さん、平松太さんの5名が入会して頂きました。この上も無い喜びでした。努力された杉浦功哲増強委員長さんは、2月28日に突然ご逝去されご冥福を祈るのみです。また12月末日付けで榊原義嗣さんが退会されガバナー補佐経験者だけに寂しさが重くなりました。

当時振り込め詐欺が横行していました。その影響で金銭を奪うだけでなく、人と人との間に不信という壁を築いてしまう振り込め詐欺。その罪は深いと感じます。

2億6千万円の万博ロータリー館はいかがでしたか。日進工業さんはその万博ロータリー館で会社の40周年記念を盛大に行われたとお聞きしまして、思い出に残るすばらしいことだと感心しました。発想力豊かな会社は違うなと思ったしだいです。

4月30日にRI会長主催祝賀会に出席しました時のグレンE. エステス Sr. RI会長の基調講演の一部を朗読させていただきます。

上着にロータリーのバッジを付けて、一步戸外に出ますと皆様の言行は、より一層大きな意味を持つことになるのです。皆様がどんなことをなさっても、世間の人々は、皆様をロータリーアンとして見ております。世間は皆様をロータリーのメンバーとして判断します。つまり、皆様によって、ロータリーというものを価値するのです。元国際ロータリー会長のボブ・バースさんは、何年も前に、ロータリーのバッジを付けている人は、次のようなメッセージを発信していると述べております。すなわち、私を信用することが出来ます。私は信用に値します。私は受け取るよ

りも多く与えます。

私はいつもお手伝いいたします。ロータリーのバッジがそのようなメッセージを送っているという事実は、長年にわたってロータリアンたちの勝ち得た信用の証であります。今日のような実業界の現状においては、ロータリアンの責任として世間から信用され続けていることは嘗てないほど重要であります。信用がなければ、善を行うことが出来る力の多くを失うこととなります。私たち一人（ひとり）は、毎日、無数の倫理的な決断をしております。ほとんどの皆さんは、特に考えることもなくその決断を下しております。私たちがお店でお釣りを多く貰いすぎたとき、それを正しく計算します。

私たちは、同僚が机に置いた財布を盗むことはありません。電車に乗るときは切符を切ってもらいます。その日には検札係がいるかどうかではなく、私たちはいつもそのように行動しているからです。これらは決定を下すというほどのことではありません。自動的に出来る行為であり、正直な人々の行いです。また、そうあらねばならないのです。けれども、倫理的な決定を下すことは多くの場合、そんなに簡単なことではありません。雇われている者として、第一義的に忠実であるべきなのは、雇い主に対してでしょうか。それとも、顧客に対してでしょうか？真実以外の何かを言うことは、はたして適当でしょうか？あなたの使用人に評判が悪いとわかっているような決定を下して正当だとされるのは、どのような場合でしょうか？ロータリー活動が始まった早い時期から、ロータリアンは、専門職業人として、高い倫理基準を推進することに取り組んでまいりました。世界的に最も広く印刷され引用され用いられている職業倫理の声明は、四つのテストであります。このテストは、後に国際ロータリー会長になったロータリアンのハーバート・J・テラーが破産の危機に直面していた企業再建を引き受け1932年に提唱したものです。24語で倫理基準をあらわしたこのテストは、1943年に国際ロータリーに採用されました。

百カ国語以上の言葉に翻訳され、ありとあらゆる方法で出版されているこのテストは4つの問いかけから構成されております。すなわち、私たちが考えたり、述べたり、試したりする事柄について、1) 真実かどうか 2) みんなに公平か 3) 好意と友情を深めるか 4) みんなのためになるかどうか 一見、簡単な公式分ですが、これでもって、私たちが、日常、遭遇する倫理問題の99%に適用できると思っております。

時には、どれが正しいことかはっきりしないことがあります。どれが本当に、みんなのためになるかどうかを決めることが出来ない状態にも遭遇します。一生懸命努力しても、好意とよりよい友情を深めることができない事態もありますし、誰も彼もが満足できないような決定を下さざるを得ない状況もあるわけです。とはいっても、私たちは物事の決定について四つのテストを適用する責任がありますし、また、私たちの職業生活でロータリーの善意を適用する責任があるのです。このようにすれば、私たちは100年にわたってロータリアンが現在までに勝ち得た信用を引き続きもっと強固なものにしてゆくことができるでしょう。

次回例会案内 平成17年7月6日（水）

クラブフォーラム 役員挨拶